

国分寺バプテスト教会
創立50周年記念



プロジェクトチーム企画
講演会

「みんなで生きる～バングラデシュのおはなしを聞く会」

バングラデシュ北部・マイメンシンで6年半にわたり、活動してこられた日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）山内章子さん（理学療法士）から、障がいのある方々、またイスラム教徒の方々と「共に生きる」とはどんなことだったのか、お話を伺います。また私達自身にとって「共に生きる」ことの意味や、どう実践していくのか、そのあり方について、考えるきっかけにしたいと思います。

日時 5月16日（土）午後2時～4時

場所 国分寺バプテスト教会



山内章子さんって？

理学療法士。都立府中リハビリテーション専門学校で学び、卒業後武蔵野赤十字病院で約15年にわたり勤務後、教員として後進の指導に努められました。2007年からJOCSワーカーとしてバングラデシュへ派遣され、テゼ共同体のブラザーたちにより設立された障がい者コミュニティセンター（CCH: Community Centre for the Handicapped）を中心に、6年半にわたり理学療法技術者の育成と、障がいのある人へのリハビリテーションに携わり、2015年2月帰国なさいました。

***** お問い合わせ *****

国分寺バプテスト教会

〒185-0033 東京都国分寺市内藤 1-10-77

TEL 042-576-6046

<http://homepage2.nifty.com/kbch/>

JOCS とは？

日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）は「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書 13章 34節）というキリストの教えにしたがい、アジアやアフリカの草の根の人々が、健康的な生活を送るための自発的な努力を、ワーカー（保健医療従事者）派遣と奨学金支援、協働プロジェクトにより側面から支える活動を行う公益社団法人です。

バングラデシュとは？

1971年にパキスタンから独立。世界最貧国のひとつながら、近年は首都ダッカを中心に経済は成長しています。その一方、国内の貧富の差が広がり、農村部ではいままも十分な保健医療サービスを受けられない人々がいます。

国民の大多数はベンガル人でイスラム教徒が最も多く、ヒन्दウー教徒も約1割を占めます。国境地域を中心に仏教やキリスト教を信仰するモンゴル系の少数民族も在住し、民族間、宗教間の対立が生じることもあります。

お願い

JOCSは使用済み切手や書き損じハガキ、外国コインなどを集め、アジアやアフリカの保健活動に役立てています。ご協力いただける方は当日までに収集箱にお持ちよりください。

どなたでもご参加ください。

入場は無料です。



KOKUBUNJI
BAPTIST CHURCH